

中学生が模擬手術



医師の指導を受けながら臨んだ胆のう摘出手術のシミュレーション



超音波メスを用いて患部に見立てた鶏肉の切除にも挑戦

臓器摘出 最新の機器使い 縫合体験

室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院(松木高雪院長)で10日、本物の医療機器を使って手術などを模擬体験できる中学生対象の「ブラック・ジャックセミナー」が開かれた。生徒たちは、最新の医療機器を使った模擬手術などにも挑戦。さまざまな手術で人の命を救う外科医のやりがいと仕事について、楽しみながら学んだ。

「ブラック・ジャックセミナー」は、医師不足が続く中、子どもに医療に関心を持ってもらうようと、総合医

西胆振地域では初開催となる今回は、製鉄記念室蘭病院との共催で開かれ、室蘭と登別の中学校から男女計20人が参加。内視鏡トレーニングのほか、シミュレーター画像による胆のう摘出手術や超音波メス使用手術、自動吻合・縫合器



最後には「修了証書」も贈られた

「この日、指導したのは、仙丸直人副院長や市村龍之助外科・消化器外科長、高橋康宏呼吸器外科長など、第一線で活躍する同病院内、外科医6人をはじめ、研修医ら。参加者は医師らのアドバイスに耳を傾けながら、緊張した面持ちで最新の医療機器を操作した。

「医師も手技の向上を目指して練習する」というシミュレーター画像による胆のう摘出手術体験では、参加者は、「血管や胆汁が流れる管に傷をつけないこと」などと注意を受けながら、術野が映ったモニターに集中。両手両足を駆使して機器を懸命に操っていた。

また、手術室では超音波メスや電気メス使用手術体験にも挑戦。患部に見立てた鶏肉を上手に切除する姿に、「迷いがなくて、いいね」と褒められる参加者も。最後には、参加者一人一人に修了証書が授与された。市村院長はやりがいがあり、苦しむ人々を助けることができる仕事。ぜひ、外科医を志して」と思いを伝えていた。

参加した吉田有弘君(室蘭・翔陽中3年)は「最新の医療現場に触れられて楽しかった」と笑顔。篠原日菜子さん(同・桜蘭中2年)は「糸の縫い合わせなど、上手に機器を使った。医者になれるよう、勉強も頑張りたい」と話すと、参加者も、将来の進路選択や夢を見据えて、充実した一日を過ごしていた。

ブラック・ジャックセミナー

製鉄記念室蘭病院

内視鏡トレーニング体験に挑戦

